ナガセランダウア
NLだより
1
No.529
2022年1月発行

●トップコラム／兵庫教育大学大学院 教授　竹西 亜古
●新年のご挨拶
●ルミネスおよびビジョンバッジ取扱い・返却時の注意点について
●お年玉クイズ／クイズに答えて、希望賞品をGETしよう!!

トップコラム 241

竹西 亜古

放射線の伝えかた
情報提供からリスクコミュニケーションへ

放射線の健康影響について、どのように伝えればいいのでしょうか? この問いに専門家は、正確な情報を間違いなく伝えればいいと答えるでしょう。もちろんその通りです。しかし心理学者であるわたしは、ちょっと待って、と挟みます。

「伝える」は、人と人が情報を介して関わり合う行為です。そしてコミュニケーションは、伝える行為がなされる場の全体を意味します。コミュニケーションが有効に機能するということは、その場に参加した全員、すなわち情報の送り手も受け手もが、知らせたい・知りたいというそれぞれの目的を達し、その場に参加したことに満足できることです。

正確な情報を伝えることは、大前提です。その上で、有効なリスクコミュニケーションを達成するためには、受け手が情報を処理する際の心理的特性を理解することが重要です。その特性とは「人は、自己関与が高くない限り、認知負荷を減らす情報処理を好み、あまり客観的ではない」ということなのです。

福島第一原子力発電所事故当時、被災地の住民は放射線影響への自己関与が極めて高い状態でした。そのような場合、人は多くの情報を処理して自分にとって最良の判断しようとします。一方、現在の非被災地の人々は自己関与度が低いため、簡便な判断方法を選好するのです。自分に関係ないことはあれこれ考えるのが面倒なので、処理の近道を使います。その結果、客観的なリスク評価とは異なるリスク認知がなされがちなのです。TverskyとKahnemanは、このような近道を「ヒューリスティック」と名付け、実際に人が推測や判断で使用することを示しました。

例えば、人は事象の生起確率を推測するとき、母数を無視した判断をしがちです。「この町には乱暴運転の赤タクシー会社と安全運転の青タクシー会社があります。今、交差点でタクシーが大きな事故を起こしました、どちらの会社のタクシーの確率が高いと思いますか」という問いに、多くの人が「運転が荒い赤だ」と答えました。そこで「それぞれのタクシー会社の所有台数は、赤20台、青80台です」という母数情報を知らせたのですが、「それでも赤だ」と推測は変化しなかったのです。最初に得られた情報で「赤は乱暴だ。だから事故を起こしやすい」というイメージを形成したことが、後続の母数情報を無視させたのです。このように人は、対象の典型性や“ありがちさ”に基づいて推測する方法（代表性ヒューリスティック）を多用しがちです。

また客観的リスクは、危害の大きさと生起確率という互いに独立なものの積ですが、人のリスク認知は、危害の大きさによって、起きるかもしれないと思う程度が影響されます。過去に起きた甚大な危害は、人の記憶に残りやすく、また思い出しやすいものです。そのような記憶は、同種のリスクの大きさを推定する際に、アクセスしやすい・使いやすい情報となります（利用可能性ヒューリスティック）。従って、大きな事故が起きた後は、同種の事故が起きる確率を高く推定し、リスクの過剰視が生じます。さらに過剰視が繰り返された対象は、危険な対象としてのイメージが確定し、それによって正しい情報が正しく伝わらない事態が生じてしまいます。

受け手は主観的で非合理的なものなのですが、送り手はそれを忘れがちです。一般に送り手は、科学的な訓練を受けた人であるため、客観性や合理性の世界に生きているからです。そのため、正しい情報提供がすべて、と思いがちなのです。しかし、コミュニケーションは一方的な情報提供ではありません。送り手と受け手が情報をやりとりしながら、作り上げていくものです。リスクコミュニケーションの目的は、リスクに関わるすべての当事者が、それぞれの立場で理解を深め、互いの信頼を醸成し、問題解決に向けた共考・協働をすすめることです。受け手を理解し、配慮する姿勢は、情報提供をリスクコミュニケーションにする大事な第一歩だと思います。

たけにし あこ（兵庫教育大学大学院 教授）

プロフィール●大阪府出身。京都大学大学院文学研究科博士後期課程満期退学。博士（文学）。専門は社会心理学、リスク心理学、心理的公正研究。リスク心理学分野では、実験心理学的立場から放射線、原子力、医療、食品安全等における一般市民のリスク認知の特徴を研究し、有効なリスクコミュニケーションのあり方を探究している。現在、放射線の健康影響を分かりやすく市民に伝えるための表現法の研究・開発に取り組んでいる。

新年おめでとうございます

2022年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

代表取締役社長
浅川 哲也

長きにわたり新型コロナウイルス感染症の対応にあたられている全ての皆様へ、心から敬意を表するとともに、深く感謝申し上げます。

弊社としては、新型コロナウイルス感染防止の様々な対策を講じることで、お客様へのサービス継続を第一に考えた操業に努めております。

世界中の人々を悩ませている新型コロナウイルスの脅威は“見えない”恐怖ではないでしょうか?「ウイルスが見えない」「無症状の感染者は認識できない」「感染経路が見えない」等々、直接見えない、認識できないものへの対応は難しく、人々を不安にさせています。この見えない脅威は放射線も同じです。私たちが相対している放射線も見えません。しかし、新型コロナウイルスを可視化するのは難しくとも、被ばく放射線量を測定してお知らせすることはできます。放射線を取り扱うお客様の「見えない不安を、見える安心」に変えるため、これからもより正確な被ばく放射線量測定サービスをご提供することにより、お客様の放射線防護の一翼を担い「見える安心」をお届けしてまいります。

昨年は眼の水晶体の等価線量限度が引き下げられ、防護メガネ内側の3 mm線量当量を測定するビジョンバッジサービスをリニューアルさせていただきました。お陰様で多くの皆様に新たにご利用いただいております。ルミネスバッジサービス含め弊社からご提供させていただいている全てのサービスには、常にお客様の声に耳を傾けた改善を心掛け、品質向上に努めております。本年も引き続きご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

2022年元旦

ルミネスおよびビジョンバッジ取扱い・返却時の注意点について

バッジ取り扱い上のお願い

●バッジのラベルは剥がさないでください。
測定処理の工程でトラブルを起こす要因となります。
ラベルは剥がさずにご返却をお願いいたします。

ラベル、シールが貼られている

●バッジにテプラシールやセロハンテープなどを貼らないでください。
測定する際、素子の取り出しが必要となります。
バッジのまわりにテープが貼付されていると解体に不具合が発生します。

マジックなどで文字が記入されている

●ラベルのQRコードを傷つけないでください。
QRコードはバッジ着用者情報を管理するために使用しております。
QRコード上に文字の記入やシールを貼ると、読込みが出来なくなります。

傷がついている

変更等の連絡方法についてのお願い

●バッジに付箋紙をつけた返却はおやめください。
付箋は簡単に剥がれるので、輸送中にバッジや登録変更依頼書から剥がれ紛失となったり、どのバッジに対する連絡事項なのか不明となる場合がございます。
連絡事項は必ず登録変更依頼書にご記入くださいますよう、お願いいたします。

ルミネス、ビジョンバッジ返却時のお願い

●トレイは切らずにご返却をお願いします。
バッジ返却の際は必ず専用トレイを使用し、
切らずにそのままご返却ください。
トレイを切ってご利用いただきますと、
封筒が破損しやすくなりバッジの紛失に繋がります。

●ご返却時はビジョンバッジ専用トレイをご使用ください。
バッジが小さく紛失のおそれがあるため、必ず専用トレイをご使用ください。
またトレイからの落下防止のため、納品時に届いたチャック袋に入れて
ご返却ください。

ご不明な点がございましたら、下記までご相談ください。

長瀬ランダウア株式会社　営業部　TEL.029-839-3322　FAX.029-836-8440

お年玉クイズ　クイズに答えて、希望賞品をGETしよう!!

日頃より「NLだより」をご愛読いただきまして、ありがとうございます。
今年も「お年玉クイズ」を行ないます。今回も当社ホームページからもご応募可能です。
A・B・C賞の賞品を揃えました。たくさんのご応募お待ちしております。

問 題

次の五つに共通する言葉を漢字２文字でお答えください。

① 1995年に発見された小惑星
② 東京都千代田区にある出版社
③ スティーヴンソンの小説のタイトル
④ 吹奏楽アレンジも有名なフュージョンの楽曲
⑤ 第160回直木賞受賞作

【応募方法】
官製はがきまたはホームページでクイズの答えと希望賞品、事業所名もしくは事業所番号、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号および日中、連絡のつくご連絡先（メールアドレスでも可）を必ず明記し、NLだよりに希望される企画をご記入の上、ご応募ください。
お一人様、上記どちらか1通のみ有効、記入もれ、2通以上は無効です。

【送り先】
〒300-2686 茨城県つくば市諏訪C22街区1
長瀬ランダウア(株)「お年玉クイズ」係

【締め切り】
2022年1月20日(木) 必着

【当選発表】
NLだより4月号No.532に掲載いたします。

＊お客様の個人情報は、賞品発送の委託業者に提供する場合を除き、承諾なく第三者に提供することはありません。

A賞 1名様

炊飯器
パナソニック
SR-VSX101-W
おどり炊き ホワイト
〈5.5合／圧力IH〉

B賞 4名様

シャワーヘッド
サイエンス　ウルトラファインミスト
ミラブルプラス クリア〈マイクロバブル機能〉

C賞 6名様

骨伝導イヤホン
AFTERSHOKZ
OpenComm
Slate Grey
AFT-EP-000026
〈リモコン・マイク対応/骨伝導/Bluetooth/耳かけ型〉

編集後記

明けましておめでとうございます。昨年は新型コロナウイルスにより、日本中不安の中での生活を送ることになりました。その中で一年間に亘って様々なトップコラムやシリーズ連載を掲載してまいりました。竹西先生のトップコラムにもありましたように、ご執筆いただく先生方と共に、放射線での不要な不安が生じないよう、また放射線の利用や規制に関する有用な情報発信に務めてまいります。本年も宜しくお願い申し上げます。

（編集長 八木）

1月のバッジデザイン

1月のラベルは「雪だるま」です。このだるまは「達磨」のことで江戸時代後期には雪で達磨の形が作られ縁起物として存在し、それが形を変え、過去には今でいうゆるキャラのような形もあったようです。つくばでは雪だるまが作れるほどの積雪は滅多にありませんが、機会があれば「達磨」を作ってみようと思います。

長瀬ランダウア(株)ホームページ・Eメール
https://www.nagase-landauer.co.jp
E-mail：mail@nagase-landauer.co.jp

■当社へのお問い合わせ、ご連絡は
本社 Tel.029-839-3322　Fax.029-836-8440
大阪 Tel.06-6535-2675　Fax.06-6541-0931

NLだより No.529 2022年〈1月号〉
毎月1日発行　発行部数：41,700部
発　行　長瀬ランダウア株式会社
〒300-2686
茨城県つくば市諏訪C22街区1
発行人　浅川 哲也